

# 学術情報センター

センター長 南 沢 享

学術情報センターは、本学の教育、研究、医療における学術情報利用に関する業務を担当しており、図書館、標本館、写真室、史料室、医学英語研究室、国際交流センターから構成される。

学術情報センターの業務に関する管理・運営は、学術情報センター運営委員会にて審議・決定がなされる（「東京慈恵会医科大学学術情報センター運営委員会規程（2016年8月1日制定）」）。

## 図 書 館

### 1. 年間実績

#### 1) 蔵書冊数

単行書		雑誌		年度末 総数	年間増減	
和	洋	和	洋		増	減
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
71,314	34,914	63,418	93,016	262,662	2,873	3,083
受入誌（冊子）数				電子ジャーナル提供数		
和		洋		和	洋	
種		種		種	種	
566		90		1,100	7,427	

#### 2) 図書購入費及び製本費

単行書 購入費	雑誌 購入費	計	製本費	
			金額	冊数
円	円	円	円	冊
6,975,968	15,622,181	22,598,149	2,004,264	1,047

#### 3) 図書館利用状況

館外貸 出冊数	学外他館との 相互利用件数		複写サービス		文献検索 サービス
	貸	借	件数*	枚数	
冊	件	件	件	枚	件
8,521	1,409	2,089	2,690	161,896	109,421

\*セルフサービス件数を除く

### 2. 主な事項

#### 1) 図書・雑誌の管理、利用に関すること

本学の教育、研究、医療のために図書館での利用が必要とされる図書・雑誌を、新刊情報、教職員・学生からの推薦、各種書評を考慮して、図書館委員会の承認により選定、購入した。

選定の際、図書館委員会で作成した「基本洋図書リスト（2017年12月改訂）」と「コア雑誌リスト（2008年9月改訂）」に掲載されている図書・雑誌を優先的に購入する。「コア雑誌リスト」は改訂後10年以上経過して内容が現状に即していないため、2017年度から各講座・研究室を対象に実施したアンケート調査の結果を確認し、2018年10月の図書館委員会で改訂内容を確認した。

#### 2) 電子ジャーナル、データベースの管理、利用に関すること

電子ジャーナル、医学情報データベースを大学ネットワーク上で利用する環境を整備した（電子ジャーナルヘリンクするためのタイトル一覧表、接続事故が生じた際の出版社・版元との連絡・調整など）。また、電子ジャーナル、データベースを学外（自宅や派遣先）から利用するための「リモートアクセスサービス」を継続し、新規登録者は315名であった。

診療支援ツール UpToDate の広報活動を進め、柏病院（2018年7月27日）、第三病院（2018年9月27日）でヘルプデスクを開催した（本院、葛飾医療センターは前年後開催）。なお、情報システム統括委員会の了承を得て、業務用スマートフォンでの UpToDate の利用が可能となった。

#### 3) 図書館システムの管理に関すること

2017年7月のシステム・リプレース（リコー・LIMEDIO）の後、とくに大きな障害もなく運用している。リプレース後に利用準備をしてきたマイライブラリ機能の提供を2018年4月に開始した。マイライブラリ機能により、インターネット経由で貸出状況の確認、貸出期間延長、貸出予約が可能となった。また、LIMEDIO との連携が予定されているデ

デジタル・サイネージ装置を2018年10月に導入し、図書館入り口のモニターに各種案内を放映している。

#### 4) 図書館利用の支援に関すること

図書館利用支援の一環として、医学科1～3年生、看護学科1年生、3年生の図書館利用説明と情報検索演習、附属4病院在職看護師を対象としたエデュケーションナース研修と東京慈恵会教務主任養成講習会での演習、研修医シミュレーション研修の検索演習を担当した。また、教職員を対象としたデータベース講習会を2回開催し、延べ63名の参加があった。

図書館のセキュリティに関して、図書館入り口は一般の方の出入りのある高木会館ロビーと接しているため、図書館内のセキュリティ強化について大学に相談し、2018年8月21日から警備員の巡回コースに図書館が含まれることになった(1日2回・日曜日除く)。

図書館内の飲食に関して、2017年7月から「キャップ付き飲み物を席に座って飲むこと」を試行的に許可していたが、2019年2月から正式のルールとすることが図書館委員会にて承認され、国領分館運営委員の了承も得られたため、正式ルールとして図書館(西新橋・国領分館)にて運用している。

#### 5) 担当雑誌・年報の編集に関すること

『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2017(第37号)』、『Research Activities 2017』の編集作業を担当した。

#### 6) 学術リポジトリに関すること

『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『教育・研究年報』、『Research Activities』に掲載された記事を登録し、インターネット公開した。また、学位の審査結果要旨と主論文の学術リポジトリへの登録作業を担当した。学事課との協議により、学位論文を学術リポジトリに登録する際の著作権処理に関する問合せは図書館(編集室)が担当している。2018年度の学術リポジトリへの登録は472件で、閲覧は699,552件であった。

なお、学術リポジトリ運用において、学内サーバの利用を中止し、クラウドシステム(JAIRO Cloud)に移行した。

#### 7) 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による「医学論文書きかた講習会」の開催を担当した。本講習会は、大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」

の授業を兼ねており、2018年度は以下の4テーマにて開催された。(いずれも、会場：大学1号館6階講堂、開催時間：18時～19時30分)

- ・「〔論文が書ける〕研究者になるために実践すべき日々の戦略」(2018年5月10日) 加藤総夫教授(神経科学研究部)(参加86名)
- ・「魅力的な研究と論文発表の要点」(2018年5月17日) 吉田 博教授(臨床検査医学講座)(参加67名)
- ・「How to Write Case Reports」(2018年5月24日) 岡崎真雄教授(学術情報センター医学英語研究室)(参加63名)
- ・「Key Aspects of Formal Academic Writing in Science and Key Language Points in Research Paper Writing」(2018年5月31日) 小原 平教授, ジョン・スーリア講師(英語研究室)(参加59名)

#### 8) 剽窃・盗用チェックシステムの運用

剽窃・盗用チェックシステム Turnitin Feedback Studio が2016年11月に本学に導入された後、医学科、看護学科での授業での使用、大学院委員会での利用促進の呼びかけを進めてきた。2018年7月からは、学内教員個人の登録受付を開始して、ホームページ、メール配信にて案内をした(2018年度新規利用登録63名)。

#### 9) その他

(1) オープンサイエンスセミナー開催について  
論文だけではなく研究データも公開・共有するオープンサイエンスの動きへの対応を考えるために、2019年1月15日にセミナーを開催した(会場：カンファレンスルームCD)(参加者：35名)。セミナーでは、当センター職員から粗悪雑誌(predatory journals)への対応に関する報告もした。

「データ管理と大学～現状と課題～」尾城孝一(国立情報学研究所)

「粗悪雑誌への対応について」鈴木岳史(学術情報センター)

(2) 教育病院の実習担当医師、登録医の図書館利用について

本学医学科生が実習をする教育病院に所属する医師や附属病院の登録医に図書館を開放することに関して、図書館委員会にて審議の結果、原則として本学同窓生と同様の利用を提供することが承認され、実際の運用について、臨床実習統括委員会、患者支援・医療連携センターと実運用に向けた協議を進めた。

### 「点検・評価」

図書・雑誌選定の際に、「基本洋図書リスト」と「コア雑誌リスト」を利用しているが、いずれも国外発行物を対象としているため、国内図書・雑誌も含めた図書・雑誌選定の指針である「蔵書構築マニュアル（2003年4月制定）」の見直しが求められる。

新聞の利用に関して、図書館にて購読している4紙（全国紙）に掲載された医療及び大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービスを継続した（登録97部署）。

2017年度末に、書庫1～4層の机の交換、書庫3～4層の個室整備、閲覧室1階のグループ学習室設置、閲覧室・書庫内の有線LAN敷設が終了したため、利用規則を定め、利用促進に努めた。利用状況を考慮し、閲覧室1～2階の学習環境の整備も考えていく予定である。

図書館システムに関して、マイライブラリ機能を開始し、インターネット経由での貸出予約、貸出期間延長に利用されているが、現在は利用登録者のみの利用となっている。学生については、全員利用登録をして、貸出予約・貸出期間延長以外のほか、図書館からの通知や利用に関する要望の受付のために利用することも考えていく。

電子ジャーナル・データベースの契約価格の値上がりへの対応のため、図書館委員会にて審議の結果、国領分館運営委員にも確認し、科学技術文献情報データベースJDreamⅢの契約を2018年度末で終了とした。データベースの契約は現状に即するよう見直しをする必要がある。

データベースの利用に関しては、Ovid MEDLINEと医中誌Webに新規データが追加された際に電子メールにて通知するサービス（AutoAlertサービス）を継続した（延べ23名登録）。

電子ジャーナル（国内誌）のパッケージ「メディカルオンライン」について、2018年3～5月に同一雑誌からの大量ダウンロードが発生したため、2018年5月25日～6月4日に本学における利用が全面的に停止となった。メディカルオンラインの利用ルールに従い、「1号の半分以上のダウンロード」、「短期間で同一誌から200論文以上のダウンロード」は避けるように、学内メール配信で連絡した。大量ダウンロードの判断は出版社・版元ごとで異なるので注意することが必要である。

図書館のセキュリティに関して、入退館ゲートの作動が不安定で、氏名章不携帯者・学外者の入館が十分に確認できない状態であるが、メーカー保証期間を過ぎている機種で修理は困難である。そのため、

入退館ゲートの交換を次年度予算にて申請した。

学生会からの要望（アンケート結果）を考慮し、試験期間の2018年7月14日～8月26日と2018年11月17日～2019年1月19日の土・日曜日の閉館時間を、職員の勤務時間帯の調整により、試験的に21時まで延長した（通常、土曜19時、日曜17時閉館）。利用効果を確認し、次年度の試験期間にも実施するかを判断することとする。

図書館内の飲食について、「キャップ付き飲み物を席に座って飲むこと」を許可することをルール化した。飲食に関して禁止されている行為も見受けられるため、次年度はルール違反者にペナルティを貸すことが図書館委員会にて了承された。

学術リポジトリへの学位論文登録の際の著作権処理に関する問合せ先を図書館（編集室）が担当した。関連して、リポジトリ未登録の学位論文の登録促進については、学事課担当者と継続して対応策を協議する必要がある。なお、2017年度に、学術リポジトリ登録は、本学刊行物掲載記事のみでなく、本学教職員の学術論文も対象とすることとなったが、現在のところ本学刊行物以外の登録はない。オープンサイエンスへの対応を含め、学術リポジトリでは本学刊行物以外に掲載された教職員の学術論文も登録対象としていることについて学内に周知を図りたい。

## 図書館国領分館

分館長 内田 満

### 1. 年間実績

#### 1) 蔵書冊数

単行書		雑誌		年度末 総数	年間増減	
和	洋	和	洋		増	減
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
66,700	11,678	9,944	3,882	92,204	2,138	2,582
受入誌（冊子）数						
和		洋				
種	種					
194	43					

#### 2) 図書購入費及び製本費

単行書 購入費	雑誌 購入費	計	製本費	
			金額	冊数
円	円	円	円	冊
7,025,232	4,964,768	11,990,000	624,024	319

## 3) 図書館利用状況

館外貸出 冊数	複写サービス	
	学内	他大学
冊	件	件
6,964	290	46

## 2. 主な事項

## 1) 国領分館に関すること

国領分館は、医学科国領校、看護学科、第三看護専門学校の学生及び教職員、第三病院の教職員、研修医を主な利用対象者とする。国領分館の運営に関しては、国領分館運営委員会にて全体的な方針を決定するほか、視聴覚資料の購入利用に関しては国領分館視聴覚資料選定委員会で、学生用資料に関する事項は国領分館学生図書委員会において審議している。利用支援として、看護学科1年生の情報検索演習を図書館（西新橋）の職員と協力して担当しているほか、第三看護専門学校1年生のガイダンスと看護学科3年生の演習は国領分館のみで対応している

## 「点検・評価」

購入図書の選定に関して、教員に講義の参考となる図書の推薦を依頼し、購入した図書は館内掲示、ホームページで推薦図書として案内した。スペース確保に関して、2017年度から実施していた電子ジャーナルで利用可能な雑誌を中心とした除籍作業が終了し、今後3年分の図書・雑誌の収納スペースを確保することができた。

## 標 本 館

## 1. 年間実績

## 1) 標本数

マクロ標本	1,824 点
顕微鏡標本	2,549 点

## 2) 視聴覚資料

ビデオ・プログラム	1,915 セット
スライド・プログラム	601 セット
16mm フィルム	37 セット
コンピュータ・ソフトウェア	76 セット
語学プログラム	206 セット
その他	79 セット

## 2. 主な事項

## 1) 標本館に関すること

各種標本のメンテナンス（補修、展示標本ケース42点の交換、ホルマリン液補充）、教育標本室の清掃を実施した。

フリーザーの老朽化に伴い、プラスチック標本の作製ができなくなった。標本館委員会にて標本作製の現状を確認して審議した結果、プラスチック標本作製は中断することとなった。

## 2) 総合展示に関すること

2019年1月21日～2月1日に、大学1号館ロビー、高木2号館地下1階ロビーにて開催した（4テーマ）。

- ・「がん免疫療法の進歩と変遷」本間 定教授（悪性腫瘍治療研究部）
- ・「痛風を起こすだけではない高尿酸血症＜高尿酸血症と腎疾患・心疾患の関連＞」大野岩男教授（内科学講座（総合診療内科））
- ・「臨床と研究と；伝統の卵巣腫瘍を通じて」磯西成治教授（産婦人科学講座）
- ・「放射線治療による局所制御に“Total Cell Kill”が必要か」關根 広教授（放射線医学講座）

## 3) 視聴覚資料の管理、貸出に関すること

学内からの推薦に基づき、標本館委員会で購入選定をした。

## 4) 学会用備品の貸出に関すること

成医会購入の学会備品の貸出業務を担当した。標本館は高木会館4階に位置するため、高木会館の減築・耐震補強工事によりエレベータが使用できない期間（2019年2～4月）は、学会用備品のうち、机、いすはF棟会議室で、マイクアンプは図書館カウンターで保管した。

## 「点検・評価」

標本館見学者は905名であった（学内255名、学外650名）。見学者の要望に対応できるよう、標本のメンテナンスに努める必要がある。

視聴覚資料は、標本館委員会にて選定し、標本館にて保管、利用提供しているが、図書とセットになっている資料もあるため、標本館委員会では、次年度以降は、図書館にて保管、利用提供することが適切であるとの意見でまとまった。

学会用備品の中には、映写機や照明スタンドなど、ほとんど利用がないものがあるため、次年度以降は必要備品のみ保管にとどめることを考えたい。

標本館担当者2名のうちパートタイム職員（週3日）1名が2018年6月末で退職のため、2018年7月以降は1名のフルタイム職員で業務を担当した。



## 写 真 室 史 料 室

### 1. 年間実績

- 1) 撮影・スライド作成 125件 (5,380枚)
- 2) ビデオ編集機の利用 61件 (255.5時間)
- 3) コンピュータによるカラープリント作成 593件 (11,394枚)
- 4) 35mmスライド画像入力サービス 8件 (2,331枚)

### 2. 主な事項

- 1) 教育・研究のための写真・ビデオ撮影, 画像入出力, カラープリントのサービス

患者病変部, 顕微鏡標本, 摘出標本, 電気泳動の写真撮影, 臨床実技トレーニングのビデオ撮影, スキャナからの画像入力とスライドや写真への画像出力, 大判カラープリンタによるポスタープリントを実施した。標本館は高木会館4階に位置するため, 高木会館の減築・耐震補強工事によりエレベータが使用できない期間(2019年2~4月)は, 大判カラープリンタによるポスタープリントは図書館2階事務室にて対応した。

- 2) 本学の広報活動の支援

本学の研究・病院施設や各種行事の記録のための写真の撮影・編集・管理, 各講座のホームページや学会プログラムに掲載する写真の撮影などにより, 本学の広報活動を支援した。

#### 「点検・評価」

ポスター作成, ビデオ編集などにおいては, ソフトウェアの使用法に関する問合せに対応し, 作成物が利用者の希望する内容となるよう支援している。ビデオ編集に関しては, オーサリングソフトウェアが更新されたため, 新機能を活用できるよう操作法の習得に努めた。

### 1. 年間実績

- 1) 利用状況

	利用者数 (件)		合計(件)
見学・資料閲覧	学内	15	90
	学外	75	
資料提供・貸出	学内	20	66
	学外	46	
調査	学内	40	86
	学外	46	

### 2. 主な事項

本学の歴史及び学祖高木兼寛先生に関する資料の収集業務のほか, 卒業アルバムや寄贈資料のデジタル化も進めた(デジタル化委託業者: 紀伊國屋書店)。調査関連では, 学内外からの問合せに対応し, 必要に応じて資料の貸出・提供をした。

#### 「点検・評価」

史料室業務は, 2018年6月までは専任のパートタイム職員(週3日)が担当し, 2018年7月以降は図書館職員が兼務で担当した。史料室見学, 本学歴史に関する問合せ, 史料のデジタル化への対応などの通常業務は, ほぼ滞りなく遂行できた。

## 医 学 英 語 研 究 室

教 授: 岡崎 真雄

### 教育・研究概要

#### I. 概略

医学英語研究室では, 医学英語に関する教育・研究活動, 本学教職員・学生への医学英語に関する相談を担当している。

#### II. 教育

2018年度の担当は, 以下のとおりである。

1. 医学科2年生: コース外国語Ⅱのユニット「一般英語Ⅱ」
2. 医学科3年生: コース外国語Ⅲのユニット「医学実用英語Ⅰ」
3. 医学科4学年: コース外国語Ⅳのユニット「医学実用英語Ⅱ」

### 〔点検・評価〕

学生教育及び学内発行英文誌「Jikeikai Medical Journal」, 「Research Activities」の英文校閲を担当した。国際交流センター主催のInternational Caféや海外からの選択実習生のガイダンスにも関わり、本学学生と海外からの学生の交流をサポートした。

2018年10月27日（5年生16名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－第2回セッション

2018年12月1日（5年生15名参加）※講義・練習：2018年11月17日

2018年12月8日（5年生16名参加）

## 国際交流センター

センター長 芦田 ルリ

### 教育・研究概要

#### I. 海外からの選択実習生の受入れ

海外医科大学からの選択実習生の受入れは、2018年4月～2019年3月の期間で138名(男子学生69名, 女子学生69名)であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生, 教職員との交流会(International Café)を開催した。

#### II. 海外選択実習生

応募者を面接して審議した結果、以下のとおり教授会議にて2018～2019年度実習生として推薦した。

- ・ King's College London GKT School of Medical Education 5名
- ・ National Taiwan University 4名
- ・ University of California, Los Angeles (UCLA) David Geffen School of Medicine 3名
- ・ Ludwig-Maximilians-Universität München 2名
- ・ Stanford University 2名
- ・ National University of Singapore 2名
- ・ Chulalongkorn University 2名
- ・ Seoul National University 2名
- ・ University of Leeds 1名
- ・ University of Hawaii John A. Burns School of Medicine 1名

#### III. 医学科学生の英語医療面接実習の実施

医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語医療面接実習を実施した。

- ・ オープンキャンパス英語医療面接実習  
2018年8月13日（1年生5名参加）、2018年8月14日（1年生5名参加）
- ・ 海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－第1回セッション  
2018年10月20日（5年生17名参加）※講義・練習：2018年10月6日

#### IV. 看護学科学生の英語医療面接実習の実施

看護学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語医療面接実習を行った。

- ・ 海外臨床実習へ行く学生の英語医療面接実習  
2019年2月5日（3年生11名, 2年生2名参加）、2019年2月25日（3年生11名参加）

#### V. 海外実習・留学支援セミナーの開催

2018年10月3日に第4回海外実習・留学支援セミナーを開催した。41名の参加があった(学生14名, 教職員27名)。

#### VI. 選択実習(国外)報告会, 医学科海外選択実習報告会の開催

2018年9月30日に岡崎真雄教授による学術発表(海外選択実習成果報告会)の方法に関する講習会を開催した。また、2018年9月29日に2018年度後輩向け海外課外実習体験発表会を開催した。2018年12月8日に2018年度海外選択実習成果報告会を行った。2018年度海外選択実習生19名の報告の審査結果を教学委員会に報告の後、学長から優秀賞が3名に授与された。

#### VII. 危機管理セミナーの開催

2018年12月25日に海外実習予定者のための危機管理セミナーを開催した。

#### VIII. 第2回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウムの開催

2018年9月22日に第2回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウムを開催した。以下6名の演者による講演があった。

- ・ Dr. Eddie L. Greene (Mayo Clinic)
- ・ 横尾 隆教授 (内科学講座)
- ・ Dr. Craig E. Daniels (Mayo Clinic)
- ・ 反田篤志先生 (McKinsey & Company)
- ・ Dr. Andrew D. Badley (Mayo Clinic)
- ・ 大木隆生教授 (外科学講座)

## K. Mayo Clinic Dr. Newman のシミュレーション実習の開催

2018年9月25～26日に開催し、初日に医学科6年生6名と教員1名、2日目は1年目の研修医2名と教員4名の参加があった。Dr. NewmanとDr. Laackの指導を受けた。

2019年3月18～19日に開催し、延べ11名の参加があった(2019年3月18日:学生4名,研修医2名,2019年3月19日:学生3名,研修医2名)。

## X. 「IELTS セミナー」, 「TOEFL iBT テストスキルアップセミナー」の開催

2018年12月17日にIELTSセミナーを開催した。また、2018年12月10日にTOEFL iBTテストスキルアップセミナーを開催した。

## XI. 奨学金, 助成金の支給

海外での学習, 発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。

1. 宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成: 前期6名60万円, 後期12名130万円

申込者から国際交流センター運営委員会が選考し, 教授会議に報告の上, 学長が決定した。

2. 学外研究員: 2016年度選考者1名153万円(3年目), 2017年度選考者1名365万円(2年目), 2018年度選考者1名4万円(1年目)

2019年度学外研究員を, 推薦された候補者から国際交流センター運営委員会にて選考した候補者と選考過程を学長に報告し, 学長により決定された。

3. 慈恵医師会海外選択実習奨学金: 20名234万円

希望者から国際交流センター運営委員会が選考し, 教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し, 教授会議に報告した。

4. 独立行政法人日本学生支援機構2018年度海外留学支援制度(協定派遣・協定受入): 8名70万円(派遣), 11名88万円(受入)

協定校での選択実習希望学生から国際交流センター運営委員会が選考し, 独立行政法人日本学生支援機構に申請の上, 支給した(協定派遣)。また, 協定校からの選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し, 独立行政法人日本学生支援機構に申請の上, 支給した(協定受入)。

## 「点検・評価」

海外からの選択実習生の受入れは138名で, 前年度よりも12名増加した。海外で選択実習を行う学

生は18名で前年度よりも減少した。毎週月曜日に開催している, 選択実習生と本学学生, 教職員との交流会(International Café)もほぼ毎回実習生からの発表があり, 盛況である。海外での臨床実習を希望する学生が増えるのに伴い, 低学年から英語力の伸長を図ることが今後ますます必要である。前年度に引き続き, Mayo Clinicで行われている実践的なシミュレーション教育をDr. Newmanにご教示いただいたが, 今後もこのようなFaculty Development・実習を臨床医・学生ともに続けて行くことが重要である。

## 研究業績

### III. 学会発表

- 1) Ashida R, Fukuda K, Minamisawa S, Oishi K. Medical electives abroad: Do they contribute to the “globalization” of physicians? 21st JASMEE (Japan Society for Medical English Education) Academic Meeting. Tokyo, June. [J Med Eng Educ 2018; 17(2): 40]
- 2) 及川沙耶佳(京都大), 芦田ルリ, 武田 聡. Cultural competencyの涵養を目的としたシミュレーション教育の開発. 第50回日本医学教育学会大会. 東京, 8月. [医教育 2018; 49(Suppl.): 164]
- 3) 及川沙耶佳(京都大), 芦田ルリ, 武田 聡. 救急外来における外国人患者の受け入れ状況とその問題点について. 第46回日本救急医学会学術総会・学術集会. 横浜, 11月. [日救急医学会誌 2018; 29(10): 519]
- 4) Ashida R, Takeda S, Oikawa S(Kyoto Univ). A survey of cases in emergency rooms to create educational scenarios for developing cultural humility. 16th Asia Pacific Medical Education Conference (APMEC 2019). Singapore, Jan.